

石川県におけるウンカの予察灯による消長

石 崎 久 次・川 瀬 英 爾

(石川県農業試験場)

予察灯によるウンカ類の出現型とそれから導かれるセジロ・トビイロウンカの予察については、すでに奈須、末永氏(1956)の報告がある。筆者等は昭和28年以来金沢市にある農試予察灯に飛来したウンカ類全種の誘殺数を記録して、ウンカの消長を調査し、その結果は年々の病害虫発生予察特殊研究として報告してきた。ここでは既往5ヶ年の成績を一応整理して石川県におけるウンカの消長とセジロ、トビイロウンカに関係ある数種ウンカについて報告するが、この際に、ウンカの同定を賜った農業技術研究所、長谷川仁技官に深謝の意を表す。

〔発生消長〕 予察灯に飛来したウンカを毎日採集して、石原氏の同定法(1951)に従ってことごとくルーペ又は顕微鏡で、種類、頭数を分けた。その結果を図示すると第1図のようである。石川県において予察灯に集つ

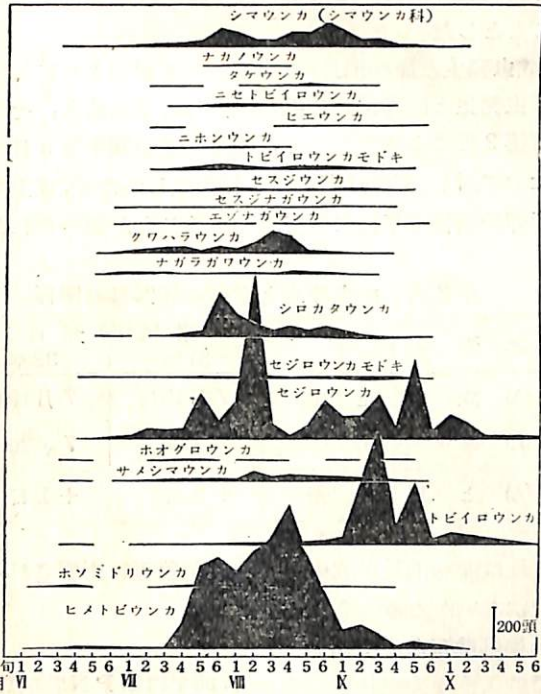
トビイロウンカのそれで、後期発生群にはセジロウンカ、トビイロウンカの重要種であつた。中間発生群に属するものはサメシマウンカ、シロカタウンカ、ナガラガウンカ、クワハラウンカ、セスジウンカ、ニホンウンカ、トビイロウンカモドキ、ニセトビイロウンカ、ナカノウンカ、ゴマフウンカなどで、これらは予察灯附近の雑草内で卵あるいは幼虫で越冬し第1世代と最終世代は短翅が多く、又夏季でも短翅の発生が多い種類であるため飛来数が少く、飛来期間も短いようである。従つて中間発生群に属する種類は予察灯によつて発生消長の全ぼうを知ることが困難であるし、初発生と他のウンカとの関係を論議することも無理である。コブウンカ類やハコネホソウンカは長翅型で予察灯附近に多発しても飛来数が少いことがわかつた。トビイロウンカ属の消長について見ると、トビイロウンカは石川県ではまれに6月中旬から飛来するが、平年のそれは6月末からで、普通9月に入つてその山が現われる。これに比してトビイロウンカモドキやニセトビイロウンカは第1世代が短翅ではじまるため、初飛来はトビイロウンカと同じ時期となる。しかしその山は7月末から8月初めであるのでこの時期はトビイロウンカと混同され易いので、その種類分けには一層の注意が必要である。シマウンカ科のシマウンカについても予察灯に飛来したものを調査して見ると、初飛来は他のウンカ上科のものより概して早く6月中旬からで、7月6半旬と8月6半旬に山が現われ飛来数もかなり多い。

〔セジロウンカ・トビイロウンカと他のウンカとの関係〕 両種の誘殺数は他種ウンカの初飛来日又は初期飛来数から予察できそうである(第1表)。

第1表 予察灯によるセジロ、トビイロウンカと他のウンカとの相関係数

項	目	相関係数
セジロウンカの誘殺数と	セジロウンカの初飛来日	$r = -0.713$
	ホソミドリウンカ	$r = -0.597$
	セジロウンカモドキ	$r = -0.605$
	シマウンカ	$r = -0.824$
セジロウンカの誘殺数と	セジロウンカの初期飛来数	$r = +0.979$
	ホソミドリウンカ	$r = +0.937$
	サメシマウンカ	$r = +0.732$
トビイロウンカの誘殺数と	トビイロウンカの初期飛来数	$r = +0.933$
	トビイロウンカモドキ	$r = -0.665$

初期飛来とは7月4半旬までをいう。



第1図 石川県におけるウンカの類の予察灯による消長 (昭28~32)

たウンカの群集は、奈須、末永氏の指摘した如く大略初期、中期、後期発生群に分けられるようである。初期発生群は6月上旬から飛来するホソミドリウンカ、ヒメト